

## 【セッション B-P7】

### 体操復権に必要なハード面（器具・施設）からのアプローチ ドイツの体操器具をヒントとして

今村悟（京都学園大学）

<体操コード> 1209

<キーワード> 体操器具 施設 開発 ドイツ

<はじめに>

小学校や中学校における器械運動の授業が皆無に等しい中で、その要因としてあげられるのが、使いにくい器具、工夫されていない器具、移動しにくい器具等、先生や生徒に優しくないものである。これでは「楽しくない体操」が進行してしまい、狭い器具庫に山積みされた体操器具（跳箱、踏み切り板、マット等）をみると、体操が忘れられ、ますます放置されていくのではと危惧する次第である。

このような日本の学校体操の現状をしっかりと把握したうえで、何故ドイツでは今も多くの人達が体操に熱中しているのだろうかと考えたとき、器具の存在が一つの要因ではないかと思われる。

ドイツにおいて、どのように工夫された体操器具がそろっているのかを紹介することによって、将来の日本の体操器具が工夫・開発されていくことを目的として、ソフト面からだけではなく、ハード面からも関係者にアピールすることが大切はないかと考え、この研究を行った。

<ドイツの器具>

日本においても、B スポーツ大学ではドイツ製の体操器具が完備している。図1はマットとその台車であるが、このマットの特徴は、軽いで持ち運びが楽で、自由に組み合わせができる。つぎ目に段差が生じないし、マットが波を打っていないので怪我が少なく、害虫の心配がない。

図2は跳箱とベンチの組み合わせである。跳箱は均一の幅でできているので何段にも重ねられる。また、高さ調整が容易で大人一人でも可能で、底に台車が出る仕掛けとなっているので、移動が大変簡単であり、横のどっぴりがないので補助台としても使用できる。

ベンチと組み合わせて様々な工夫によって子供の体操の遊具としても可能である。ベンチは、非常に丈夫な材質でできており、安定感抜群でひっくり返せば平均台となり、初心者の平均台練習に最適である。



図1 マットと台車



図2 跳箱とベンチの組み合わせ

図3は鉄棒用の差込み口で、注目すべきはその蓋にある。簡単に開けられないし、開かないようにできている。ジャンプを多く行うスポーツ種目(バレーボールやバスケットボール等)は、蓋が簡単に開くととても危険であり、子供が簡単に開けてしまい事故を起こす可能性もある。鉄棒は高さ調整が可能で、支柱はアルミニウムでできているので持ち運び、組み立てが簡単である。差込み口のゆれを防ぐように閉め具がついているので、簡単な演技(け上がり、車輪等)に支障はない。

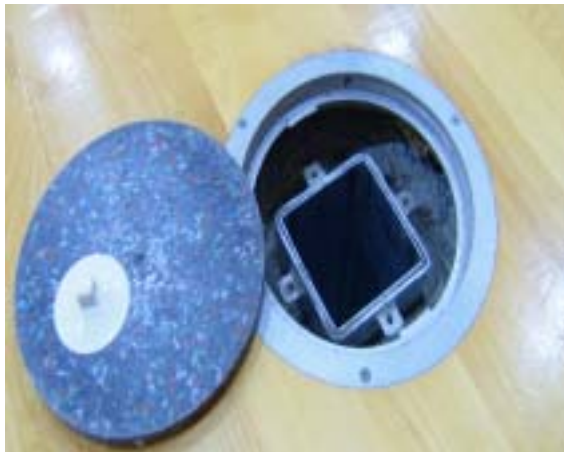


図3 床面の鉄棒差込み口



図4 室内用鉄棒

ドイツ器具の欠点は、大変高価であることと輸入が困難である。しかし、統一規格であるので、どのメーカーの製品を買っても適合する。また、安全性にも配慮されており安心して利用できる長所がある。

#### <おわりに>

工夫のない体育館、狭い器具庫、危険性の高い床等、日本の体操器具と施設の現状をしっかりと把握し、ハード面からのアプローチが将来の体操を復権させる要因となり、先生や生徒に優しい器具が必要であると考えらる。

そのためにも、日本の実情に合った器具や施設を、器具メーカー、建築家や体操関係者が一体となって「体操しやすい、やさしい施設・器具」の開発・研究に取り組みが必要でないのだろうか。

体操復権の一つとして、ソフト面からだけではないこともアピールすることを提案するものである。